

# みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

## “Jesup-2” Enters Its Second Decade

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2010-03-23<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者: イーゴリ, クルプニク<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="https://doi.org/10.15021/00001188">https://doi.org/10.15021/00001188</a>                       |

## 「ジェサップ2」が第2「十年期」を迎える

イーゴリ・クルプニク

昨今では時の経つこと、さながら短距離走の如しである。1897～1902年に実施されたジェサップ北太平洋調査（Jesup North Pacific Expedition ——以下 JNPE と略記）の遺産に照準を合わせたわれわれの「ジェサップ2」事業計画が、1992年10月にカナダのケベックで開催された第1回極北社会科学国際会議（International Congress of Arctic Social Sciences）の開会セッションで正式に発足したのが、ほんの一瞬前のことのようなのである。それ以降多くの歳月が流れ、幾つかの事業が推進されたいま、われわれがかつて設定した諸目標について、またこの間に展開した諸事業の成果や影響をめぐっても、本稿ではその暫定評価を試みる。

### 1. 「ジェサップ2」ネットワーク

<sup>ワタリガラス</sup>  
「渡鴉のアーチ——ジェサップ北太平洋調査を追試・検証する」と題する国際シンポジウムは、「ジェサップ2」事業の一部をなすものである。本書には、同シンポジウムで報告を行った14名の出席者のペーパーが収録されている。「ジェサップ2」の活動については、この数年間、レビュー論文やサマリーが何件か英文で公刊されてきたが（Fitzhugh 1996; 2003; Fitzhugh and Krupnik 2001; Kendall and Krupnik 2003b; Krupnik 2003）、本稿は、それらに所載のデータを更新するとともに、日本の読者にはそれらの概略を紹介することも目的とする。

日本・ロシア極東地方からベーリング海峡を経て、アラスカ・北米北西海岸に至る、北太平洋の全域を包摂して国際的共同研究を推進するという発想は、スミソニアン研究機構極北研究センターのウィリアム・フィツヒュー（William W. Fitzhugh）所長が、1980年代後半に提唱したものである。「両大陸の十字路（Crossroads of Continents）」と銘打つ（ソ連／ロシア・米国・カナダ3国の関与する）国際的長期展示プロジェクトは、その成果のひとつとして、民族誌的大展覧会「両大陸の十字路——シベリアとアラスカの文化（Crossroads of Continents: Cultures of Siberia and Alaska）」（cf. Fitzhugh and Crowell 1988b; Fitzhugh 2003）、ならびにその浩瀚な図録（Fitzhugh and Crowell 1988a）を生み出した。これらふたつの事業は広大な環北太平洋域に照準を定めて、数年にわたり推進された国際協力の所産であるが、同じ領域が本書のタイトルでは「<sup>ワタリガラス</sup>渡鴉のアーチ（The Raven's Arch）」と、頗るエレガントに命名されている。「十字路」事業は関連する幾つかのシンポジウムや公開行事も含めて、北太平洋域を交差する連携を、前世紀初頭のJNPE以来かつてなかった高水準にまで高めた。しかし、これらの事業は同時にまた、北太平洋域

の原住諸民族やその文化に関するわれわれのデータや知見，とりわけ民族学研究，収集品や古文書の研究といった領域，そしてまた同域原住民の現在の地位をめぐっても，本質的な空隙の存在を顕在化させた。そこで「ジェサップ2」は，「両大陸の十字路」プロジェクトの当然の帰結ではあるが，守備範囲を広げて，より研究に傾斜した相貌を帯びるようになった。

「両大陸の十字路」展は，（米・ソ連／ロシア・カナダ3国の）博物館が所蔵する民族学コレクションを一括して太平洋の両岸で展覧する，という意味で最初の企画であったとはいえ，その追跡調査を進めるわれわれには，幸いにも先行者がいた。「ジェサップ2」という名称は，まさにわれわれの学術的「父祖」である，ニューヨークのアメリカ自然史博物館（American Museum of Natural History——以下ではAMNHと略記）によって1897～1902年に実施された「ジェサップ北太平洋調査（JNPE）」へ敬意を表すべく，そのように命名されたものにほかならない（Map 1）。「父祖」筋の調査は，当時のAMNH理事長モリス・ジェサップ（Morris K. Jesup, 1838–1908）に因んで命名された（Photo 1）。その当初から最後の刊行物の出版に至るまで，JNPEを企画して指揮も執ったのは，アメリカ人類学の「父」と称されたフランツ・ボアズ（Franz Boas）である（Photos 2 and 3）。5年にわたって展開されたJNPEのフィールドワークは数班の小チームによって実行され，その調査域はシベリアと北米に跨る北太平洋域の主要な諸区域を包摂，サハリン島・アムール流域からカムチャツカ・チュコトカを経て，カナダ・米国の北西海岸にまで及んだ（Cole 2000, 2001; Freed *et al.* 1988a, 1988b, 2003; Krupnik and Vakhtin 2003）。JNPEの成果は，*Publications of the Jesup North Pacific Expedition* と題する大判の逐次刊行物（11巻31分冊）のほかに，ほとんど30年以上にわたって数ヶ国語で執筆され続けた，あまたの学術論文，フォークロア・言語テキスト集成，小論文，博物館やコレクションのレビューとしても公刊されている（Krupnik 2001; Krupnik and Vakhtin 2003）。JNPEの顛末は，「ジェサップ2」事業のもとで上梓された多数の刊行物を含む，幾つかの著作で繰り返して語り継がれてきた（Cole 2001; Krupnik and Fitzhugh 2001a; Kendall and Krupnik 2003a; Krupnik and Vakhtin 2003）。

「ジェサップ2」は，ほぼその百年後に，この頗る成功を収めたモデルに挑戦し，20世紀の世紀末に北太平洋を横断する形で国際提携や学術協力を促進するために企画された。以下では，「ジェサップ2——北太平洋域における生き残り・連続・文化変化（Jesup 2: Survival, Continuity, and Culture Change in the North Pacific Region）」と題する国際シンポジウム——1992年にカナダのケベックで開催された「ジェサップ2」の初会合——で，われわれがその事業計画の当初目標をいかに設定したかを略述する（Fitzhugh and Krupnik 1993, 1994, 2001）。われわれが当時提起した目標は，研究・出版・博物館にかかわるコンソーシアムの創設，そして北太平洋域原住諸民族の文化・言語・政治的地位が，過去と現在のいずれにおいても焦点となる数カ国へ向けて，事業計画への参加を呼

びかけることにあった。1992年の時点では、1997年に到来するJNPE開始百周年を有効に利用することを望んでいた。われわれは「ジェサップ」後の百年を期して、騒がしい20世紀を通じて北太平洋域で生じた多くの変化を記録すべく、同域の原住諸文化の地位をめぐって追跡レビューの実施を企画したわけである。

「ジェサップ2」事業の一環として百周年を祝う企画を発表するに当たり、われわれを大いに勇気づけたのは、当時の社会に漲る公明正大な国際協力の気運であるが、それは1990年代初頭に特有の、きわめて感動的な公的論調を特徴づけるものであった。ソ連における政治的変化が加速されるにつれて、学術協力も結実してゆく。北米・西欧・日本の人類学者たちは、ここ数十年を通じて初めて——実際はJNPE以降で初めて——シベリアを縦横に歩き回り、シベリア原住民の間で長期のフィールド調査に従事することができるようになった。その一方では、ますます多くのロシアの学者が国外へ出て国際的に活躍し始め、国際的学術集会・共同執筆・多民族構成の研究プロジェクトにも積極的に参加するようになる。

われわれは1992年の時点で、新しい国際協力の気運が、JNPEにおいてきわめて特徴的であった連携ネットワークに近いもの、あるいはさらに広範なネットワークの確立に裨益することを願っていた (Krupnik and Vakhtin 2003)。百年前に実現した最も見事な成果のひとつが、米国・ロシア・カナダ・ヨーロッパの研究者からなる幾つかの小チームが実行したフィールド調査であるが、彼らはほぼ5年間、相互に数千マイル離れていながらも、共通の (あるいはとてもよく似た) 調査計画に従ってフィールドワークを実施していた。これらのJNPEチームのうちではボゴラス (Waldemar Bogoras) とヨヘルソン (Waldemar Jochelson) のシベリアでの仕事 (Photos 4-7) が、日本の同僚には恐らく最もよく知られている。われわれの当初の事業計画に関する限り、少なくともフィールドワークにおける高度の自由・国際連携・旅・出版といった部分では、「ジェサップ2」の最初の「十年期」(1992-2002)、就中その当初の5年間に大きな成果が達成された、と私は自負している。

「ジェサップ2」はこれまでに1992年のケベック、1993年ワシントン (Krupnik and Fitzhugh 2001)、1994年アラスカのアンカレッジ、1997年のニューヨーク (Kendall and Krupnik 2003a)、そして2002年には札幌において、都合5回の国際集会 (シンポジウム) を開催している。1897年に実現したJNPE最初のフィールド・シーズンの百周年に当たる1997年、ニューヨークのAMNHで開催された5日間の国際集会是、断トツで最大の催しであった。これには、数カ国から参集した50名ほどの学者や原住民リーダーが出席、10を越す分科会はいずれも盛況で、市民向けの催事が1週間を通じて目白押しであった (Kendall and Krupnik 2003b)。

## 2. 「ジェサップ2」期（1992-2002）の精神

ボアズ・ボゴラス・ヨヘルソン、そしてまた JNPE のほかのメンバーたちとも違って、われわれははるかに多面化された世界で、全く異なる調査や倫理の諸前提のもとで仕事を進めている。われわれの学術の先行者が1世紀以上前に掲げた主要目標は、完璧な消滅の途上にあった北太平洋域の原住民文化を、能う限り完全に記録することにあった。AMNH 理事長で JNPE のスポンサーでもあったジェサップや、その組織者で学術的リーダーでもあったボアズにとって、それは、数千点に及ぶこれら諸文化の標本や遺物が AMNH の収蔵庫へ、ひいてはまた博物館の展示室へもたらされる千載一遇の機会でもあった。また、広く考えられていたように、「消滅しつつある文化」の多面的な記録が、学術のため、博物館のパトロンのため、教養ある公衆のため、ひいては人類のためにも保存される筈であった。それは「ジェサップ1」期を支配した時代精神であり、のちに「救出人類学」とも称されることになる、19世紀後期を特徴づける文化研究のモットーでもあった。原住民の物的標本・言語・文化、はたまた——計測値や石膏鑄型・骨、3方向から特撮された人物写真という形での——物理的表象すら、それらが永久に消失する前に「救出」される、つまり、博物館収蔵物品・学術記録を通して、またその他の学術的手段によっても、破壊を免れて保存されることとなる。

「ジェサップ1」の先行者らと違って、われわれは今や、北太平洋域原住民の諸文化が消失ではなくて、「変化し」「適応しつつある」と信じている。なるほど、それらは多くの側面で、数世代前とは全くその相貌を異にしている。伝統文化や社会制度の諸特徴は、近代化・国家主導の教育・新しい経済制度や生活様式の圧力のもとで、その多くが完全に消失してしまった。にもかかわらず、原住民文化のその他の諸特徴——芸術・工芸・生業活動・舞踊・儀礼・価値観——は依然として生き続け、繁栄を謳歌している。一度は「消滅中」とか、はたまた「消滅した」と引導を渡された伝統の幾つか——例えば、カヌー作り・捕鯨・ポトラッチ祭事、部族を横断して挙行される集会・スポーツ競技・競争——は、今日の原住民文化復興のなかで新たに意味づけられて、再活性化・再統合されている (Krupnik 2005)。かつての日用品の多くは、民族芸術や文化的矜持の象徴となった。かつては家族や共同体で行われた儀式が、今日では多数の参加者を団結させる情緒的公式行事として祝われることも、決して珍しくない。原住民の言語も、多くの場所ではもはや日常的に使用されぬとはいえ、今や地域を挙げて学校で教えられ、——教科書から博物館陳列室のキャプション、市名表示や街路標識に至るまで——多様な書体で記述され、また公刊もされている。この目覚しいプロセスは、人類学関係の多くの著書や論文のなかで詳述されている。それはつまり、原住民諸文化が具える高度の快復力や、多くの破壊的変化の進行を阻止し、場合によっては、言語や文化の変動の方向すら逆転させることも可能とする、北太平洋域諸民族の力量を立証するものである

(cf. Dorais and Krupnik 2005)。

したがって、今日の人類学者は文化変化を普遍的メカニズムとして、或いはまた小さな地域共同体（部族）から近代的な大規模社会・国家へと向かう、「片道」の線状変換として考察することもしない。われわれの主張は、文化の接触が文化の消滅や全面的な文化同化、或いはまた原住民伝統の死滅も超えて、さらに複雑な状況をあまた創出するというものである。「ジェサップ期」の学者たちとは違って、われわれには近代の転換を、さまざまな現地の現実や地理・政治的現実のもとで、それぞれが独自の道を歩む、しばしば相互に独立のプロセスと見做す傾向がある。ジェサップ調査から百年が経過したいま、われわれは、文明との遭遇に起因する文化の不可避的消滅を予告した彼らの言説 (cf. Bogoras 1909/1975: 733) の多くは決して成就することがなかった、と報告できるのを幸せに思う。

われわれはまた、「学術記録」という用語にもきわめて異なる意味づけを行い、刊行物や博物館収蔵標本の役割をめぐるでも、新しい文化保存の展望を持っている。1世紀前のJNPEの学者らは第一義的に、文明が到来する以前の原住民文化のうちで、最も原初の「未感染の」伝統を記述することを追求し、或いは、そうすることを自らの使命であるとも考えた。今日では、何よりもまず、決して終わることのない文化変換プロセスのなかで「変化」を記述することに自らの照準を合わせている。現代の人類学者は当然のように、JNPEの年経た記録が、学術的大理論や大分類の構築に裨益する、「汚染されていない」原住民伝統を的確に捕捉した真正のスナップ写真と見ることをやめている。われわれはそれらを寧ろ、時間とはかかわりのない文化の交換や変換のなかに登場するあまたな場面のひとつ、と見做すのである。

この新しい洞察は、われわれが学術的刊行物へ向ける視線や、民族学博物館・展示・博物館コレクションの役割を、劇的に転換させた。「ジェサップ1」期のキュレーターとは違って、われわれは自らの使命を、学者や「教養ある公衆」のみに向けられたものとはもはや考えていない。それどころか、JNPEにかかわる古いコレクションや刊行物には、新しい聴衆が数多く見出される。われわれはこれらのコレクションや刊行物を、一般民衆にとって、館内外や教育の現場で進められる多くの活動において、そして何よりもまずは現代の北太平洋域原住民やその共同体にとって、緊要のものとして見做している。「ジェサップ1」期の研究者精神は民族誌的標本を、大博物館、学術的に組織されたコレクション、そしてまた刊行物のなかに安置することによっても、文化の記録を「救出する」ことにあった。今日では、ほかならぬ百年前に確保されたこれらの標本や記録の「公開」と「共有」こそ、われわれのキーワードである。われわれは、今日のグローバル・コミュニケーション、インターネット・現代教育・文化復興・拡大してゆく原住民の諸権利の時代にあって、これらコレクションや刊行物がさらに多くの人々にとって、新たな価値、より一層高められた価値を有すると信ずるものである。

### 3. 日本における「ジェサップ2」

1897～1902年の「ジェサップ調査」は、シベリアと北米の北辺領域を本来の調査地と定めていたとはいえ、日本ならびにその周辺のロシア領極東地方とも実質的關係を有していた。JNPEのシベリア班を構成するメンバー——ラウファー(Berthold Laufer)、フォウケ(Gerard Fowke)、ボゴラス夫妻、ヨヘルソン夫妻、バクストン(Norman Buxton)、アクセルロート(Axelrod)——は全員が日本の横浜港を經由しており、同港からヴラヂヴォストクを経て、シベリアのそれぞれの調査地へと向かった(Photo 9)。日本との「ジェサップ・コネクション」は、ベルトルト・ラウファー(1874-1936)と最も強く結びついていた。彼は1898～1899年、サハリン島とアムール流域でフィールドワークに従事したのち、帰路には再び日本に数ヶ月滞在したからである(Inoue 2003; Kendall 1988; Roon 2002 ——本書に収録のローン論文も参照)。サハリンと北海道のアイヌの人たちに強い関心を寄せていたラウファーは、アイヌ言語学と民族学への興味をその後も持ち続けた(Laufer 1917; Roon 2002: 146-147)。

JNPEと日本ならびにアイヌとの結びつきは、レオ・シュテルンベルグ(Leo Sternberg)がボアズから、JNPE報告書シリーズの1巻としてニヴフ(ギリヤーク)民族学に関するモノグラフを執筆するよう要請されて以降、さらに強化される(Kan 2001; 2003; 2004; 2009)。シュテルンベルグは、ラウファーに倍加して、アイヌの起源やアイヌ文化に持続して深い関心を寄せていたからである。JNPE報告書にはアイヌ民族学資料はほとんど反映されていないとはいえ、JNPEの組織者であったボアズは当初から、JNPE事業で調査さるべき北太平洋域の原住諸民族のリストに、アイヌを包摂することも意図していた(Inoue 2003; Fitzhugh 2003; Krupnik and Freed 2004)。この計画の挫折が明らかとなるや、ボアズはブロニスワフ・ピウスツキ(Bronisław Piłsudski)に白羽の矢を立て、1909年にはピウスツキがサハリンと北海道でアイヌ研究に着手するお膳立てを試みたり、あるいは少なくとも、彼が仕上げたアイヌ研究の成果や標本コレクションを、米国の幾つかの博物館へ提供すべく斡旋の労を重ねていた(Inoue 2003)。ボアズの尽力は遂に結実しなかったとはいえ、今日ではその名声が世界に轟くようになった、北太平洋域を専攻する今ひとりの人類学者ピウスツキは、かくて間接ながらJNPE関係者の一員に加えられることとなる。

われわれが今ひとつの「ジェサップ2」シンポジウムの日本での開催を発想した理由は、ラウファー＝シュテルンベルグ＝ピウスツキ＝ボアズの連鎖を遥かに超えたところに存した。北米の4箇所(ケベック、ワシントン、アンカレッジ、ニューヨーク)で「ジェサップ2」の集會が開催されたあと、われわれは北太平洋域の「渡鴉のアーチ」の対蹠地点へより接近することを望んだ。これがJNPE事業のシベリア・フィールドに対する格別な配慮であり、JNPEの構想とその成果においてシベリアが果たした特別な

役割を強調するものでもあることは、言うまでもない。

日本で「ジェサップ2」の国際集会を実施するというアイデアは1999年、網走で開催の第13回「北方民族文化国際シンポジウム」（道立北方民族博物館主催）の会期中に芽生えた。当初の反応はきわめて前向きであり、日本で「ジェサップ」集会を開催するための実行委員会が発足する。2002年10月、日本・ロシア・米国から招聘された25名ほどの報告者が札幌で一堂に会して行われた国際シンポジウム「<sup>フタリガラス</sup>渡鴉のアーチ」は、その実現に至る過程も御多聞に漏れず当初の想定より長い道のりになったとはいえ、札幌集会はあらゆる点で大成功を収めた。本書は、その数ある成果のひとつにほかならない。それはまた、ヨヘルソン班が北東シベリアから帰還したことで、JNPEのフィールド調査が大団円を迎えた1902年の、百周年に呼応することともなった。したがって、「<sup>フタリガラス</sup>渡鴉のアーチ」シンポジウムは、10年以上にわたってさまざまな国から参集した人たちによって推進された「ジェサップ2」事業が、実行してきた国際集会の「第5次」シンポジウムに当たる。

われわれはこの場を借りて、シンポジウムの実施に際して支援を賜った道立アイヌ民族文化研究センター、北海道大学、北海道庁、北海道教育委員会、札幌市、日本航空札幌支店、北海道新聞、朝日新聞北海道支社、はなます基金、およびその他各地の機関や団体に対して、心より御礼を申し上げる次第である。われわれの日本の同僚たち、就中、主要な重責を双肩で支えられたふたりの共同組織者——谷本一之・井上紘一両教授——は、われわれの格別な賞賛に値する。彼らの献身的尽力はシンポジウムの成功に対して、そしてまた本書という形でのシンポジウム報告集の公刊においても、不可欠の要因であった。

日本で「ジェサップ2」シンポジウムを開催する際の特別な課題は、日本の多くの人類学者がシベリアやロシア極東地方の全域で手広く展開してきた、新規のフィールドワークへさらなる照明を当て、国際的認知の促進を図ることにもあった。北米やロシアの研究者が「ジェサップ2」事業に鼓舞されてあまたの成果を産出していた、まさに同じ「十年期（1992-2002）」の間に、日本においても人類学的シベリア研究には新しい世代の活躍が認められた。日本人や日露共同の調査が新たにフィールドワークを実施した領域は、西シベリアのギダン半島から、サハ共和国・バイカル湖・チュクチ半島にまで及んでいる。就中、最も緻密な研究が行われているのは、アムール流域・沿海地方・カムチャツカ・サハリン・クリル諸島といった、日本の研究者が伝統的に関心を寄せてきた地域である。日本の学者らはさらに、ロシアの幾つかの民族学博物館を訪ねて資料調査を実施し、アイヌ関係標本コレクションに関する詳細な記録を作成し、図録を上梓している（e.g. Ogihara and Taksami 1998）。日本の学者は今や、ロシア極東地方の全域——例えば、ユジノ・サハリンスク、ヴラヂヴォストク、ハバロフスク、ペトロバヴロフスク、パラナ、マガダン、ヤクーツクなど——において、各地



のコレクションが記載される場合は常連執筆者であり、また地方博物館の逐次刊行物でも常連寄稿者である。その逆もまた真であって、多くの地方博物館や研究センターに勤務するロシア極東地方の人類学者たちも今や、網走・札幌・白老などで開催されるシンポジウムでは常連の顔触れである。最近では、「ジェサップ領域」の原住民にかかわるロシア人のシベリア民族学関係論文が数十点、網走の北方民族博物館の年次シンポジウム報告集やその他において、翻訳・刊行されている。

1990年代には幾人かの日本の学者が、北太平洋域の北米側でも調査研究を敢行している (Kishigami 2004 でのレビューを参照)。日本人による2大プロジェクトは近年、北海道からベーリング海峡を経てヴァンクーヴァー島に至る「ジェサップ領域」の全域を包摂する形で、文化や言語の相互関係を追究した。そのひとつは2ヵ年にわたる展示プロジェクトで、北太平洋域を横断する(16世紀~19世紀後期の)伝統的取引と文化ネットワークの究明を試みた。その最終成果として、大阪の国立民族学博物館で特別展とふたつの国際シンポジウムが開催され、2種の図録も上梓された(大塚 2001, 2003)。「環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究」と題する今ひとつのプロジェクトは、多年次にわたる壮大な言語学研究(1999-2003)であるが、研究代表者の宮岡伯人大阪学院大学教授は1999~2003年、数十人の共同研究者を結集して共同研究を推進された(Miyaoka and Endo 2001)。「消滅に瀕した言語」プロジェクトは、数ヶ国語で膨大な冊数の刊行物シリーズを産出してきた(2005年まででおよそ50冊の書籍や言語資料集が上梓されている)。同プロジェクトはまた、一連の日本人言語学者に、JNPEチームがかつて研究した数多くの「ジェサップ領域」の原住民言語——チュクチ、コリヤーク、イテリメン、ニヴフ、ウイルタ、ナーナイ、ウデヘ、シベリアならびにセント・ローレンス島のユピク、ツィムシアン、ヌー・チャー・ヌルト(Nuu-chah-nulth)——、およびそれら諸語の現代の話者とも、直接に接する機会を提供した。そこで「渡鴉のアーチ」シンポジウムは、日本の同僚たちの優れた研究成果の数々や、かれらが今日、極東・東シベリア・北太平洋域の民族学研究で国際連携の要として果たしつつある役割が、さまざまな形で披露される場ともなった。

同様な意味で「ジェサップ2」の第1「十年期」には、北米やヨーロッパの人類学者や博物館学芸員もまた、とりわけシベリアや北太平洋域の民族学・考古学・博物館学研究の領域で、日本の同僚たちとの学術連携を大いに進展させてきた。近年の好例としては、米国で実施された「アイヌ——北方民族の魂(Ainu. The Spirit of a Northern People)」と題する特別展、ならびにその図録(Fitzhugh and Dubreuil 1999)が特筆されるが、同事業には多くの日本人が協力し、日本人寄稿者が幾つかの章を執筆してもいる。また1998年大阪で開催の狩猟採集民国際会議と、それに関連する数種の刊行物(Anderson and Ikeya 2001; Habu *et al.* 2003; Wenzel *et al.* 2000)や、何らかの形で北太平洋域・東シベリア・北米北西部の民族や文化とかかわる、その他多くの集会やシンポジウムの報告集

(Irimoto and Yamada 2004; Kishigami and Savelle 2005; Ikeya and Fratkin 2005) も同様である。これら学術的ネットワークの多くは、(博物館収蔵アイヌ・コレクションの国際的共同調査、シベリアの狩猟・採集民研究、プロニスワフ・ピウスツキ研究、北太平洋域の原住民言語の収集記録などのように)、「ジェサップ2」の事業とはさまざまな場面で重なり合うか、或いはむしろ独立に存在している。したがって、増大する日本人のこれら事業への貢献を確認し、数ある研究ネットワークの重複部から関係者を幾人か結集させて、われわれの推進する諸事業を「北太平洋域」という共通の視座から論評することは、さらに一層重要であった。

かくて札幌シンポジウムは、かつてINPEの幾つかのチームが調査した北太平洋の東西両岸のみならず、1980年代と1990年代に推進された幾つかの共同研究プロジェクト——「両大陸の十字路」展覧会、アラスカとロシア極東を巡回する米露共同「ミニ十字路 (Mini-Crossroads)」展 (Chaussonnet 1995; Chaussonnet and Krupnik 1996; Shubina 2003)、「ジェサップ2」事業、1998~2000年の日米共同「アイヌ」展、プロニスワフ・ピウスツキ研究の国際ネットワーク、多くの日露共同研究プロジェクトなどなど——からもまた同僚やパートナーたちを結集させるものとなる。管見によれば、それこそまさに、2002年に札幌で開催された「<sup>ワタリガラス</sup>渡鴉のアーチ——ジェサップ北太平洋調査を追討・検証する」と題する国際シンポジウムの主たる成果にほかならなかった。その成果が今や、日本語版報告集という形で日本の読者の閲読に供されるわけである。

#### 4. 「ジェサップ2」のさらなる歩み

「ジェサップ2」事業の初期成果をめぐるレビューは別の既刊書 (Fitzhugh 1996; Fitzhugh and Krupnik 1994, 2001; Kendall and Krupnik 2003b; Krupnik 2000, 2003) で公刊されているが、2002年までのわれわれの主要な研究活動・刊行物・展覧会やその他の事業を対象としていた。英独露語で執筆された「ジェサップ2」にかかわる2000年までの主要刊行物を集成した最初の「書誌」も、来るべき「ジェサップ書誌」の一部として公刊されている (Krupnik 2001)。2002年の札幌シンポジウムの基調報告——本稿はこれに立脚して執筆されている——では、同年までの「ジェサップ2」事業の梗概が紹介された。同事業にかかわる書誌情報は常時ふえ続けているため、本稿ではやや控えめな目標を掲げざるをえず、ここでは継続案件にかかわる数件の新成果を追加するだけに留め、「ジェサップ領域」で2003~2005年に達成された最新成果の幾つかを、日本の読者に紹介することにしたい。以下のリストは、無論、完璧な要約からは程遠いものであり、しかもそのほとんどは、主として北米やロシアで展開された研究活動や刊行物を対象としている。

「ジェサップ2」の事業計画がしかるべくその慣性を獲得してゆくにつれて、さらに

多くの果実を産出し始める。過去 10 年間に樹立された数多くの人間的絆もまた、その果実を生み出しつつある。最も重要なものは、われわれが「ジェサップ 2」の諸成果を単行本や論文集として公刊するという頗る重大な課題が、何よりもまずはスミソニアン研究機構極北研究センターの逐次刊行物 *Contributions to Circumpolar Anthropology* に収録される形で、なんとか 2 冊 (Krupnik and Fitzhugh 2001; Kendall and Krupnik 2003a) の上梓に漕ぎつけ、ほぼ達成されたという事実である。本書は、したがって、今ひとつの「ジェサップ 2」国際シンポジウム報告集として上梓される、第 3 の論集ということになる。

最近数年間に公刊された幾つかの出版物は、成長を続ける「ジェサップ 2」文庫の一部となった。博物館コレクションや歴史資料の公刊で最も重要な成果としては、「JNPE 百周年記念写真展」の図録 (Kendall *et al.* 1997 —— 3 共編者中のふたりは札幌シンポジウムの報告者である)、ボアズが百年前に JNPE シリーズの 1 巻としてシュテルンベルグへ執筆を委嘱した手稿の、長らくお蔵入りを続けたその英訳稿「ギリヤークの社会組織 (*The Social Organization of the Gilyak*)」の公刊 (Shternberg 1999)、JNPE の歴史を手広く盛り込んで初期ボアズの数年間を論じた故ダグラス・コールの著作 (Cole 2000) の 3 点が挙げられる。「ジェサップ 2」事業の「宝石」は、言うまでもなく、その所在が久しく不明であったヨヘルソン著作『ユカギールおよびユカギール化したツングース (*The Yukaghir and the Yukaghirized Tungus*)』(1910–1926) の露訳稿の上梓 (Iokhel'son 2005) であった。これは、「ジェサップ 2」事業にかかわるサハ共和国 (ヤクーチヤ) のわれわれの同僚、故ヴラヂーミル・イヴァノフ (Vladimir Ivanov) とジナイダ・イヴァノヴァ = ウナロヴァ (Zinaida Ivanova-Unarova) が、積年の努力で仕上げた訳業にほかならない。このリストにはまた、スミソニアン研究機構が公刊した 3 件の特別展図録——『アイヌ——北方民族の魂 (*Ainu. The Spirit of a Northern People*)』(Fitzhugh and Dubreuil 1999)、英露両語版が公刊された『アラスカ・シベリアの十字路 (*Crossroads Alaska- Siberia*)』(Chaussonnet 1995; Chaussonnet 1996)——のほかに、2 点の雑誌論文 (Krupnik 2000; Wickwire 2000) や、シベリアの JNPE 領域を巡歴したふたりの AMNH キュレーターが、幾つかの博物館で収蔵標本コレクションと邂逅した体験を綴った旅行記 (Kendall and Bloch 2004) も含まれる。これらの刊行物は「ジェサップ 2」事業と直接にかかわるか、同事業に惹起された作品である。そのほかに、ロシアの同僚たちが独自に推進した出版プロジェクトや、目下進行中の出版計画が数件ある。すなわち、ヨヘルソン著『コリヤーク (*The Koryak*)』の露訳版 (Iokhel'son 1996)、ヴラヂヴォストクで開催されたロシア版 JNPE 百周年記念シンポジウムの報告書 (Artem'jev 1998)、2005 年 7 月シベリアで開催の、ワルデマール・ヨヘルソンとその遺産をめぐる会議の報告書、アナディリで進行中と伝えられるボゴラス著『チュクチ (*The Chukchee*)』の露語完訳版 (新訳全 3 巻) の出版計画、がそれである。

過去 10 年間には幾つかの研究プロジェクトや出版計画が、「ジェサップ 2」事業の一

環として着手されるか、あるいは同事業の直接の影響下で進められている。例えば、浩瀚な研究成果として上梓されたシュテルンベルグ評伝 (Kan 2009) や、かつてボゴラスやヨヘルソンが JNPE の最中に調査し、またそれ以前のシビリャコフ調査でも手懸けていた、北東シベリアにおけるいわゆるクレオール・コミュニティ、つまり混合語共同体に関する新しいモノグラフ (Vakhtin *et al.* 2004) がそれである。またカナダの学者ブリングハースト (Robert Bringhurst) は、JNPE メンバーであったスウォントン (John Swanton) が 1900 年のフィールド調査で、当時は John Sky という名で知られていたハイダの語りの名手 SKAAY から採録したハイダの聖譚や部族神話の原文テキストの、英訳版第 3 巻も公刊している (Bringhurst 2001)。とはいえ、アメリカとシベリアの古代神話、ならびに同神話の分布に関する研究で最大の成果を達成したのは、言うまでもなく、ユーリー・ベリョスキンの近作 (Berezkin 2007) であって、彼はまた札幌シンポジウムでも同じテーマで報告している。ベリョスキンはそのなかで、ボアズが百年以上前に着手した、南北両アメリカの原住民の起源を求めるひとつの「鍵」として原住民神話を研究するという課題を、遂に完成させている。なお、ボアズ・ボゴラス・ハント・シュテルンベルグ・ヨヘルソン・スミスや、その他の JNPE メンバーに関しても、新しい評伝論文が公刊されている (Berman 2001; Kan 2003, 2004, 2005a, 2006, 2009; Mikhajlova 2004; Roon and Sirina 2004; Slobodin 2004a, 2004b; Thom 2001; Vakhtin 2004)。

われわれが当初目標のひとつに掲げた、北太平洋全域にわたって原住諸民族やそのコミュニティの追跡調査を実行するという課題では、さしたる進捗がなかったとはいえ、われわれは幸いにも、「ジェサップ2」の第1「十年期」の間に行われた、「ジェサップ2」事業以外での研究成果を有している。われわれの仕事にとりわけ裨益するのは、幾つかの JNPE チームが百年前に調査した地域において、北米やヨーロッパの Ph.D. 学生や研究者らが推進した幾つかの長期フィールド調査である。これらの学者は、勿論、それぞれ各自のテーマにもとづいて調査を進めたので、彼らの研究を「ジェサップ風」の統合された研究計画のなかに按配するのは、ほとんど不可能である。にもかかわらず、彼らの多くはさまざまな「ジェサップ2」シンポジウムに出席しており、また「ジェサップ2」事業の刊行物からも影響を受けてきた。1990年代～2000年代に博士論文やフィールド報告が執筆されて、論文審査に合格する作品が続出してくると、彼らの仕事は「ジェサップ領域」に在住する多くの原住諸民族やコミュニティに対して、それぞれに異なりながらもひとつの共時的展望を創出していった。それらは今や、単発の著書や論文として続々と名乗りを上げて、堂々たる「ポスト・ジェサップ」文庫を構築している。そのような現代的新知見に恵まれた民族としては、チュクチャやシベリア・ユピク (Kerttula 1998; Gray 2004; Krupnik and Vakhtin 1997), コリヤーク (Rethmann 2002; King 2004), イテリメンやカムチャダール (Koester 2003), ニヴフやウイルタ (Grant 1995; Kwon 1993, 1998), エウエン (Vitebsky 2005), セーリシュ

(Thom 2003, 2005) やその他の北太平洋域原住諸民族が挙げられよう。北東シベリアのシャマン記録にかかわる JNPE コレクションを分析したという意味で、掛け値なしに「ジェサップ2」の所産といえる Ph.D. 論文の嚆矢は、つい先ごろ論文審査に合格したばかりのミラー (Thomas Miller) の博士論文 (Miller 2004) であるが、彼もまた「渡鴉のアーチ」シンポジウムの報告者である。このリストには、日本の同僚が「ジェサップ領域」の諸原住民族に関する研究書として過去 20 年間に上梓した数十点の刊行物も加えることが可能であろう。

われわれはまた、「ジェサップ2」事業の一環ではないものの、関連する人類学史の里程標とのかかわりで上梓された、その他多くの近刊書からも裨益するところが大きい。そのような里程標としては、例えば、1992年のボアズ逝去 50 周年、1997年のボアズによるニューヨークのコロンビア大学での人類学教育開始百周年、2001年に祝われたアメリカ人類学会 (AAA) 百周年、2001年のシュテルンベルグ生誕 140 周年などが指摘される。就中、アメリカ人類学会百周年祝賀行事では、ロシアやヨーロッパの人類学者たちとボアズとの絆をテーマとした特設パネルも含めて、ボアズに照準を定めたペーパーが幾つか発表され (AAA 2001)、またシュテルンベルグ生誕 140 周年記念シンポジウムでも JNPE との関連が論じられている (Roon 2002; Roon and Prokof'jev 2003)。このリストには、「ジェサップ2」事業のメンバーが JNPE の参加者——とりわけボアズ、ボゴラス、シュテルンベルグ——の弟子たちについて論じた近著 (Jacknis 2002; Krupnik 1998; Krupnik and Mikhailova 2006; Krauss 2006; Roon and Sirina 2003) を加えてもよからう。上述の出版物やその他多くの研鑽のお蔭で、当該研究領域は深甚な変貌を遂げてきた。そして JNPE とそのコレクションの歴史や、かつて JNPE の参加者によって研究された原住民諸集団にかかわる人類学文献のリストは、数倍にまで急増し、また使用される言語面でも英露日独語が覇を競う形で格段に充実してきた。「ジェサップ2」事業は、この拡充の実質的推進役を務めたと言ってもよからう。

近年にはさらに幾つかの「ジェサップ」プロジェクトが新規に開始されている。今では「ジェサップ調査 (Jesup Expedition)」と銘打つウェブサイトが、AMNH のメインサイトの一部として稼働中である (本書に収録のマゼイ論文を参照)。1896年にボアズが手書きで作製し、手作業で着色した「ジェサップ領域」地図の原因も、最近になって発見され AMNH コレクションに寄贈された (Krupnik and Freed 2004——Map 2)。2005年には、シベリアにおける JNPE フィールド調査時 (1900–1901) にボゴラスが撮影した AMNH コレクション所蔵写真を検証する、新しいパイロット・プロジェクトも開始された (Krupnik and Mathé 2005)。マルコヴォ、アナディリ、ウンガジクやその他の地点で撮影された約 50 葉の歴史的ボゴラス写真が、その第 1 セットとしてロシアやアラスカの現地古老の許へ送られた。その結果、これら年代物の写真が想起させる場所や人物や活動をめぐっても、新しい物語や広範な関連情報が得られている。

われわれは少なくともあと数年間刻苦勉強にこれ努めて、自らの使命の完遂を見届ける必要があるようである。

## 5. 札幌シンポジウムとその報告集

2002年に開催された「<sup>フタリガラス</sup>渡鴉のアーチ」シンポジウムは、さまざまな論題や討論を想定して組み立てられた。報告と質疑応答に充てられた5日間は、北太平洋域における諸文化や諸民族の研究が直面するさまざまな局面を包摂する形で、幾つかのテーマ別部会に割り振られた。第1部会は、考古学、言語学、神話研究といった「ジェサップ2」事業の要をなす専門領域の総覧に充てられた。第2、第3部会ではJNPEコレクションやその収集者の歴史に焦点が絞られて、百年後という視座からの展望、就中、それらを現今の研究、展示、教育、文化財の現地返還に際して、いかに活用すべきかをめぐっても議論が展開された。第4、第5部会は、主として現代の文化変化や、北太平洋域原住諸民族の文化的アイデンティティを強化すべくJNPE関連資源を活用する方策をめぐる研究など、「ジェサップ2」の第1「十年期」に直結するいくつかの個別プロジェクトにかかわる報告が中核をなした。最終日は、北太平洋域を横断する形で、その他の現代的研究を一括する特別部会に充てられ、この部会では専ら日本の学者が報告した。シンポジウムは、「ジェサップ2」事業の将来展望や、北太平洋域の全域にかかわるその他の文化研究をめぐり、総括討論で幕を閉じた。

5日間にわたる「<sup>フタリガラス</sup>渡鴉のアーチ」シンポジウムでは、合わせて25件以上の研究発表が行われた。関連刊行物としては、日本語版と英語版という2種類の報告集が上梓されることで合意が得られた。英語版は、先行する2件のシンポジウム報告集（Krupnik and Fitzhugh 2001; Kendall and Krupnik 2003a）に引き続いて、スミソニアン研究機構の刊行する逐次刊行物 *Contributions to Circumpolar Anthropology* の、「ジェサップ2」関連後続号として上梓される計画であった。遺憾ながら、さまざまな技術的理由で、その公刊は数年にわたって滞っている。日本語版は——将来公刊される英語版とやや異なる内容ではあるが——ここに上梓の運びとなった。われわれはその編集に当たられた谷本一之、井上紘一両教授へ、出版の成就を祝って、また「<sup>フタリガラス</sup>渡鴉のアーチ」の事業を成功裏に終結して下さったことに対しても、心からお礼を申し上げたい。

[英文原稿より井上紘一訳]

## 参考文献

AAA

2001 *100 Years of Anthropology. American Anthropological Association (100<sup>th</sup> Annual Meeting, November 2–December 2, 2001. Program)*. Washington, DC: American Anthropological Association.

Anderson, D.G. and K. Ikeya (eds.)

2001 *Parks, Property, and Power: Managing Hunting Practice and Identity within State Policy Regimes (Senri Ethnological Studies 59)*. Osaka: National Museum of Ethnology.

Artem'jev (ed.)

1998 А.Р. Артемьев (ред.), *Историко-культурные связи между коренным населением тихоокеанского побережья Северной Америки и Северо-Восточной Азии. К 100-летию Джезуповской Тихоокеанской Экспедиции* (Historical-cultural contacts between aborigines of the Pacific Coast of Northwestern America and Northeastern Asia: For the Centenary of the Jesup North Pacific Expedition. [Proceedings of International Conference]). Владивосток: Институт истории, археологии и этнографии народов Дальнего Востока.

Berezkin

2007 Юрий Е. Березкин, *Мифы заселяют Америку. Ареальное распространение фольклорных мотивов и ранние миграции в Новый Свет* (Myths People the Americas. Areal Distribution of the Folklore Motifs and Early Migrations to the New World). Moscow: OGI Publishers.

Berman, J.

2001 Unpublished materials of Franz Boas and George Hunt: A record of 45 years of collaboration. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh, *Gateways*, pp. 181–213.

Bogoras, W.

1904–1909 *The Chukchee*. Pts. 1–3. (*Memoirs of the American Museum of Natural History* 11; *Publications of the Jesup North Pacific Expedition* VII). New York and Leiden: American Museum of Natural History.

Bringhurst, R.

2001 *Being in Being: The Collected Works of a Master Haida Myhteller SKAAY of the Qquuna Qiighawaay*. Vancouver: Douglas & McIntyre.

CHAGS 8

1998 *8th International Conference on Hunting and Gathering Societies. Foraging and Post-Foraging Societies: History, Politics, and Future*. Osaka: CHAGS 8 Office.

Chaussonnet, Valérie (ed.)

1995 *Crossroads Alaska. Native Cultures of Alaska and Siberia*. Washington, DC: Arctic Studies Center.

Chaussonnet, V. and I. Krupnik (eds.)

1996 Валерий Шосоннэ и Игорь Крупник (ред.), *Перекрестки континентов. Культуры коренных народов Дальнего Востока и Аляски* (Crossroads of Continents. Native Cultures of Alaska and Siberia). Washington, DC: Arctic Studies Center and Natural Heritage.

- Cole, Douglas
- 1999 *Franz Boas: The Early Years, 1858–1906*. Vancouver: Douglas & McIntyre; Seattle: University of Washington Press.
  - 2001 The greatest thing undertaken by any museum? Franz Boas, Morris Jesup, and The North Pacific Expedition. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh, *Gateways*, pp. 29–70.
- Darnell, Regna
- 2001 *Invisible Genealogies. A History of Americanist Anthropology*. Lincoln and London: University of Nebraska Press.
- Dorais and I. Krupnik
- 2005 La préservation des langues et des savoirs du Nord/Preserving Languages and Knowledge of the North. *Études/Inuit/Studies* 29 (1–2). Special issue.
- Fitzhugh, William W.
- 1996 Jesup-2: Anthropology of the North Pacific. *Northern Notes* 4: 41–62. Hanover, NH.
  - 1999 Ainu Ethnicity: A History. In W.W. Fitzhugh and C.O. Dubreuil (eds.), *Ainu: Spirit of a Northern People*, pp. 9–27.
  - 2003 Heritage anthropology in the “Jesup-2” era: Exploring North Pacific cultures through cooperative research. In L. Kendall and I. Krupnik (eds.), *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 287–304.
- Fitzhugh, W.W. and A. Crowell (eds.)
- 1988a *Crossroads of Continents: Cultures of Siberia and Alaska*. Washington, DC: Smithsonian Institution Press.
  - 1988b Crossroads of Continents: Beringian Oecumene. In W.W. Fitzhugh and A. Crowell (eds.), *Crossroads of Continents*, pp. 9–16.
- Fitzhugh, W.W. and C.O. Dubreuil (eds.)
- 1999 *Ainu: Spirit of a Northern People*. Washington, DC: Arctic Studies Center; Seattle: University of Washington Press.
- Fitzhugh, W.W. and I. Krupnik
- 1993 Jesup II Research Initiative. *Arctic Studies Center Newsletter* 2: 5–8. Washington, DC: Arctic Studies Center.
  - 1994 Jesup II research initiative: Anthropological studies in the North Pacific. *Arctic Studies Center Newsletter* (Special Issue: *Jesup II Newsbrief*). Washington, DC: Arctic Studies Center.
  - 2001 Introduction. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh (eds.), *Gateways*, pp. 1–16.
- Freed, S.A., R.S. Freed and Laila Williamson
- 1988a The American Museum’s Jesup North Pacific Expedition. In W.W. Fitzhugh, and A. Crowell (eds.), *Crossroads of Continents*, pp. 97–103.
  - 1988b Capitalist philanthropy and Russian revolutionaries: The Jesup North Pacific Expedition (1897–1902). *American Anthropologist* 90 (1): 7–24.
  - 2003 The Jesup Expedition and its analogues: A comparison.” In L. Kendall and I. Krupnik (eds.), *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 89–101.
- Grant, B.
- 1995 *In the Soviet House of Culture. A Century of Perestroikas*. Princeton: Princeton University Press.



- Gray, P.A.  
 2005 *The Predicament of Chukotka's Indigenous Movement. Post-Soviet Activism in the Russian Far North*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Habu, J., J.M. Savelle, S. Koyama and H. Hongo (eds.)  
 2003 *Hunter-Gatherers of the North Pacific Rim (Senri Ethnological Studies 63)*. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Ikeya, K. and E. Fratkin (eds.)  
 2005 *Pastoralists and Their Neighbors in Asia and Africa (Senri Ethnological Studies 69)*. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Inoue, K.  
 2003 Franz Boas and an “Unfinished Jesup” on Sakhalin Island: Shedding New Light on Berthold Laufer and Bronislaw Pilsudski. In L. Kendall and I. Krupnik (eds.), *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 135–164.
- Iokhel'son  
 1997 Владимир И. Иохельсон, *Коряки. Материальная культура и социальная организация (The Koryak. Material Culture and Social Organization)*. Санкт-Петербург: Наука.  
 2005 *Юкагиры и юкагизированные тунгусы (The Yukaghir and the Yukaghirized Tungus)*. Перевод Владимиром Ивановым и Зинаидой Ивановой-Унаровой. Новосибирск: Издательство Наука.
- Irimoto, T. and T. Yamada (eds.)  
 2004 *Circumpolar Ethnicity and Identity (Senri Ethnological Studies 66)*. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Jacknis, I.  
 2002 The First Boasian: Alfred Kroeber and Franz Boas, 1896–1905. *American Anthropologist* 104 (2): 520–535.
- Jochelson, W.  
 1910–1926 *The Yukaghir and the Yukaghirized Tungus*. Pts. 1–3. (*Memoirs of the American Museum of Natural History* 13, and *Publications of the Jesup North Pacific Expedition* IX). New York and Leiden: American Museum of Natural History.
- Kan, S.  
 2001 “The Russian Bastian” and Boas: Why Shternberg’s “The Social Organization of the Gilyak” never appeared among the Jesup North Pacific Expedition publications. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh, *Gateways*, pp. 217–256.  
 2003 Сергей Кан, Новый подход к изучению жизни и деятельности Л.Я. Штернберга (A New Approach to the Study of Life and Career of Leo Shternberg). В Т.П. Роон и М.М. Прокофьев (ред.), *Народы и культуры Дальнего Востока: Взгляд из XXI века (Peoples and Cultures of the Far East: Perspective from the 21<sup>st</sup> Century. Proceedings of the international conference)*. Стр. 4–17. Южно-Сахалинск: Сахалинский областной краеведческий музей и Сахалинское книжное издательство.  
 2004 Lev Shternberg (1861–1927): Russian socialist, Jewish activist, anthropologist. *Бюллетень: Антропология, Меньшинства, Мультикультурализм* 5: 27–34. Краснодар, Россия.  
 2006 “My Old Friend in a Dead-end of Empiricism and Skepticism”: Bogoras, Boas, and the

- politics of Soviet anthropology of the late 1920s–early 1930s. *Histories of Anthropology Annual* 2: 33–69. Lincoln and London: University of Nebraska Press.
- 2009 *Lev Shternberg: Anthropologist, Russian Socialist, Jewish Activist*. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Kendall, L.
- 1988 Young Laufer on the Amur. In W.W. Fitzhugh and A. Crowell (eds.), *Crossroads of Continents*, pp. 104.
- Kendall, L. and A. Bloch
- 2004 *The Museum at the End of the World. Encounters in the Russian Far East*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Kendall, L. and I. Krupnik (eds.)
- 2003a *Constructing Cultures Then and Now. Celebrating Franz Boas and the Jesup North Pacific Expedition (Contributions to Circumpolar Anthropology 4)*. Washington, DC: Arctic Studies Center.
- 2003b Introduction: A centenary and a celebration. In L. Kendall and I. Krupnik (eds.), *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 1–11.
- Kendall, L., B. Mathé and T.R. Miller
- 1997 *Drawing Shadows to Stone: The Photography of the Jesup North Pacific Expedition, 1897–1902*. New York: American Museum of Natural History; Seattle: University of Washington Press.
- Kerttula, A.M.
- 2000 *Antler on the Sea. The Yup'ik and Chukchi of the Russian Far East*. Ithaca and London: Cornell University Press.
- King, A.D.
- 2004 Raven tales from Kamchatka. In Brian Swann (ed.), *Voices from the Four Directions*, pp. 3–24. Lincoln: University of Nebraska Press.
- Kishigami, N.
- 2004 Trends in Native North American studies in Japan since the 1990s. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 5: 91–121.
- Kishigami, N. and J.M. Savelle (eds.)
- 2005 *Indigenous Use and Management of Marine Resources (Senri Ethnological Studies 67)*. Osaka: National Museum of Ethnology.
- Koester, D.
- 2003 Life in lost villages: Home, land, memory and the senses of loss in Post-Jesup Kamchatka. In L. Kendall and I. Krupnik (eds.), *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 269–283.
- Krauss, M.E.
- 2006 The Eskimo language work of Aleksandr Forshtein. *Alaska Journal of Anthropology* 1–2: 114–133.
- Krupnik, I.
- 1998 Jesup genealogy: Intellectual partnership and Russian-American cooperation in Arctic/North Pacific anthropology. Part 1: From the Jesup Expedition to the Cold War. 1897–1948. *Arctic Anthropology* 35 (2): 199–226.
- 2000 Jesup-2: The precious legacy and a centennial perspective. *European Review of Native*

- American Studies* 14 (2): 1–2.
- 2001 A Jesup Bibliography. Tracking the published and archival legacy of the Jesup Expedition. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh, *Gateways*, pp. 297–316.
- 2003 “Jesup-2” Initiative enters its second decade. *Arctic Studies Center Newsletter* 11: 33–35.
- 2005 “When Our Words Are Put to Paper.” Heritage documentation and reversing knowledge shift in the Bering Strait region. *Études/Inuit/Studies* 29 (1–2): 67–90.
- Krupnik, I. and W.W. Fitzhugh (eds.)
- 2001 *Gateways. Exploring the Legacy of the Jesup North Pacific Expedition, 1987–1902 (Contributions to Circumpolar Anthropology 1)*. Washington, DC: Arctic Studies Center.
- Krupnik, I. and S. Freed
- 2004 Original Boas map from the Jesup Expedition discovered. *Arctic Studies Center Newsletter* 12: 16–17.
- Krupnik, I. and B. Mathé
- 2005 “Faces of Chukotka”: Studying Bogoras’ historical photographs, 1900–1901, as a Beringia heritage resource. *Arctic Studies Center Newsletter*. Supplement, p. 15.
- Krupnik, I. and E. Mikhailova
- 2006 Landscape, faces, and memories: Eskimo photography of Aleksandr Forshtein, 1927–1929. *Alaska Journal of Anthropology* 1–2: 92–113.
- Krupnik, I. and N. Vakhtin
- 2003 “The Aim of the Expedition... Has in the Main Been Accomplished”: Words, deeds, and legacies of the Jesup North Pacific Expedition. In L. Kendall and I. Krupnik, *Constructing Cultures Then and Now*, pp. 15–31.
- Kwon, H.
- 1993 *Maps and Actions: Nomadic and Sedentary Space in a Siberian Reindeer Farm*. Ph.D. Thesis. University of Cambridge, Department of Social Anthropology.
- 1998 The saddle and the sledge: Hunting as comparative narrative in Siberia and beyond. *The Journal of the Royal Anthropological Institute* 4 (1): 115–127.
- Laufer, B.
- 1917 The vigesimal and decimal systems in the Ainu numerals. With some remarks on Ainu phonology. *Journal of the American Oriental Society* 37 (3): 192–208.
- Mikhailova
- 2004 Елена А. Михайлова, Владимир Германович Богораз: Ученый, писатель, общественный деятель (Waldemar G. Bogoras: Scientist, Writer, and Public Figure). В В.А. Тишков и Д.Д. Тумаркин (ред.), *Выдающиеся отечественные этнологи и антропологи*. Стр. 95–136. Москва: Издательство Наука.
- Miller, T.R.
- 2004 *Songs from the House of the Dead: Sound, Shamans, and Collecting in the North Pacific (1900/2000) (Franz Boas)*. Ph.D. Thesis. Columbia University, Department of Anthropology, New York.
- Miyaoka, O. and F. Endo
- 2001 Languages of the North Pacific Rim. In *Endangered Languages of the North Pacific Rim* Vol. 6. A2-001. Kyoto.

荻原真子・チュウネル M. タクサミ編, SPb-アイヌプロジェクト調査団

1998 『ロシア科学アカデミー人類学民族学博物館所蔵アイヌ資料目録』東京：草風館。

大塚和義

2001 『ラッコとガラス玉——北太平洋の先住民交易』大阪：千里文化財団。

2003 『北太平洋の先住民交易と工芸』京都：思文館出版。

Rethmann, P.

2001 *Tundra Passages: History and Gender in the Russian Far East*. University Park: Pennsylvania State University Press.

Roos

2000 Татьяна П. Роон, Коллекции народов Амуро-Сахалинского региона в музеях США (Ethnology Collections on the Peoples of the Amur and Sakhalin Regions in American Museums). *Известия Института наследия Бронислава Пилсудского* 4: 139–157. Южно-Сахалинск: Сахалинский областной краеведческий музей.

2002 Международная научная конференция “Народы и культуры Дальнего Востока: Взгляд из XXI века,” посвященная 140-летию Л.Я. Штернберга (International Science Conference, “Peoples and Cultures of the Far East: Perspectives from the 21<sup>st</sup> Century,” Dedicated to the 140<sup>th</sup> Anniversary of L.Ja. Shternberg). *Известия Института наследия Бронислава Пилсудского* 6: 226–237. Южно-Сахалинск.

Roos and Prokof'jev (eds.)

2003 Татьяна П. Роон, и Михаил М. Прокофьев (ред.), *Народы и культуры Дальнего Востока: Взгляд из XXI века* (Peoples and Cultures of the Far East: Perspective from the 21<sup>st</sup> Century. Proceedings of the international conference). Южно-Сахалинск: Сахалинский областной краеведческий музей и Сахалинское книжное издательство.

Roos and Sirina

2003 Татьяна П. Роон, и Анна А. Сирина, Е.А. Крейнович: Жизнь и судьба ученого (Erukhim A. Kreynovich: The Life and Fate of a Scientist). В Д.Д. Тумаркин (ред.), *Репрессированные этнографы* 2. Стр. 47–77. Москва: Восточная литература.

2004 Лев Яковлевич Штернберг: У истоков советской этнографии (Leo Ya. Shternberg: On the Origins of Soviet Ethnography). В В.А. Тишков и Д.Д. Тумаркин (ред.), *Выдающиеся отечественные этнологи и антропологи*. Стр. 49–94. Москва: Издательство Наука.

Shternberg, L. and B. Grant

1999 Bruce Grant (ed.), *The Social Organization of the Gilyak*. (*Anthropological Papers of the American Museum of Natural History* 82). New York: American Museum of Natural History.

Shubina

1998 Ольга Шубина, Российско-Американский проект “Перекрестки континентов” и Сахалинский музей (Russian-American Project, *Crossroads of Continents*, and the Sakhalin Museum). *Вестник Сахалинского музея* 5: 69–77. Южно-Сахалинск.

Slobodin

2004a Сергей Б. Слободин, Деятельность В.И. Иохельсона и В.Г. Богораза на Северо-Востоке в 1900–1902 гг. (W. Jochelson's and W. Bogoras' Activities in the Far East during 1900–1902). В А.И. Лебединцев (ред.), *Материалы по истории Севера*

- Дальнего Востока*. Стр. 63–74. Магадан: Северо-восточный комплексный исследовательский институт.
- 2004b Иохельсон, В.И. Коряки. Материальная культура и социальная организация (1997) (Review of the Russian translation of Waldemar Jochelson, “The Koryak. Material Culture and Social Organization). *Там же*. Стр. 239–253.
- Thom, B.
- 2001 Harlan I. Smith’s Jesup fieldwork on the Northwest coast. In I. Krupnik and W.W. Fitzhugh, *Gateways*, pp. 139–180.
- 2003 The anthropology of Northwest coast oral traditions. *Arctic Anthropology* 40 (1): 1–28.
- 2005 *Coast Salish Senses of Space. Dwelling, Meaning, Power, Property, and Territory in the Coast Salish World*. Ph.D. Thesis. McGill University. Montreal, Canada.
- Vakhtin
- 2004 Николай Б. Вахтин, “Наука и жизнь”: Судьба Владимира Иохельсона (по материалам его переписки 1897–1934 гг.) (“Science and Life.” The Fortune of Vladimir Jochelson, Based upon his Correspondence, 1897–1934). *Бюллетень: Антропология, Меньшинства, Мультикультурализм* 5: 35–49. Краснодар, Россия.
- Vakhtin *et al.*
- 2004 Николай Б. Вахтин, Евгений Головкин, и Петер Швейцер, *Русские старожилы Сибири. Символические и социальные аспекты самосознания* (Russian Old-Settlers in Siberia. Symbolic and Social Aspects of Self-Identification). Санкт-Петербург: Новое издательство.
- Vitebsky, P.
- 2005 *The Reindeer People. Living with Animals and Spirits in Siberia*. Boston and New York: Houghton Mifflin.
- Wenzel, G., G. Hovelsrud-Broda and N. Kishigami
- 2000 *The Social Economy of Sharing: Resource Allocation and Modern Hunter-Gatherers* (*Senri Ethnological Studies* 53). Osaka: National Museum of Ethnology.
- Wickwire, W.
- 2000 *Ethnographic Eyes*. (*BC Studies. The British Columbia Quarterly*, Special Double Issue, Nos. 125 and 126).





Map 2 Hand-colored 'Culture Distribution' map of the North Pacific produced by Franz Boas in 1896 (?). Courtesy of the AMNH Division of Anthropology. First reproduced in Krupnik and Freed 2005, p. 16.

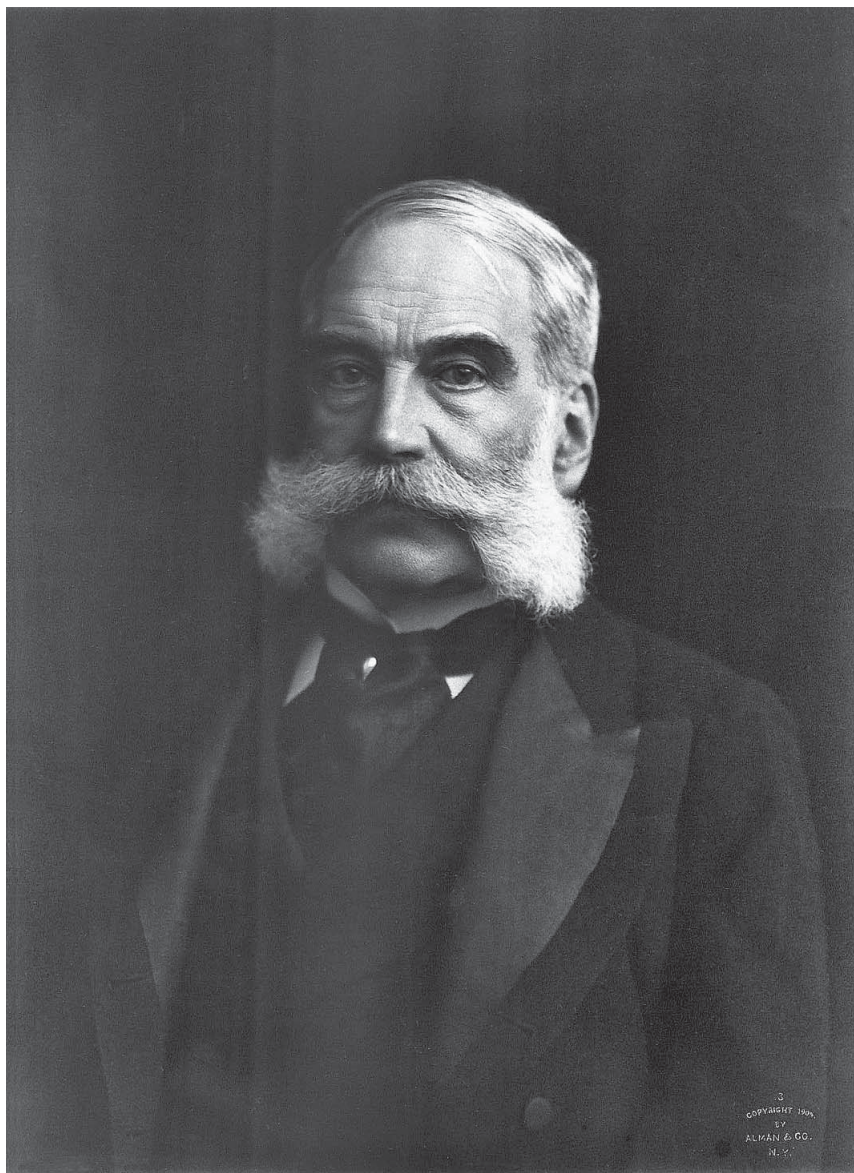


Photo 1 Morris K. Jesup, 1838–1908, the President of the American Museum of Natural History and the sponsor of the Jesup North Pacific Expedition, 1897–1902. AMNH #114141





Photo 2 Franz Boas, 1858–1942, the head and the science leader of the Jesup North Pacific Expedition. AMNH #2A5161



Photo 3 Kwakwaka'wakw (Kwakiutl) woman at Fort Rupert, British Columbia, demonstrates cedar spinning for future museum life group, as Franz Boas and George Hunt hold up a backdrop. O.C. Hastings, photographer, 1894. AMNH #11604



Photo 4 Jochelson's team rafting down the Korkodon River, North Siberia, fall 1901. AMNH #4194



Photo 5 Dina Jochelson-Brodsky emerges from native sod-covered hut, Summer 1900. AMNH #334626



Photo 6 Waldemar and Sofia Bogoras, with the group of expedition freight at Mariinsky Post, Siberia, summer 1901. AMNH #1380



Photo 7 Waldemar and his Native guides in Chukotka, on their return from Cape Chaplin, June 1901. AMNH #11117



Photo 8 Waldemar Jochelson, Norman Buxton, and Waldemar Bogoras in San Francisco, prior to their departure to Yokohama for their Siberian fieldwork, spring 1900. Studio photo, AMNH #38343